

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	地域都市計画	担当教員	鶴田佳子		
学年学科	4年 建築学科	後期	必修	1単位(学修)	
学習・教育目標	(D-2 社会技術系) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
授業の目標と期待される効果： 建築計画を進める上で不可欠となる、建築が都市の主要な構成要素として、都市空間の中でどのような社会的意味を持つかを理解する。 具体的には近代都市計画発生の経緯や初期の都市計画理論、および現在の日本の都市計画制度における主に建築にかかわる規制誘導手法やその問題点を理解する。そのことによって、建築技術者として必要な社会的視野を身につける。 ① 建築のデザインと都市空間構成との関わりを理解 ② 近代都市計画思想・理論の理解。 ③ 日本の都市計画制度において、主に建築の規制誘導手法やその問題点を理解する。		成績評価の方法： 中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋平常試験 20～50 点程度とし、総得点率 (%) によって成績評価を行なう。 達成度評価の基準： 教科書に記載されている基本的事項について試験で出題し、6 割以上の正答レベルまで達していること。成績評価の重みは、授業時間数に比例し、①：②：③＝1：1：5 とする。 ① 建築のデザインと都市空間構成関わりに関する問題が 6 割以上できる。 ② 近代都市計画思想・理論の理解に関する問題が 6 割以上できる。 ③ 都市計画制度に関する用語、仕組みや問題点に関する問題が 6 割以上できる。			
授業の進め方とアドバイス： 第 1 回～第 2 回では、この授業の導入として、建築物を都市構成要素としてどのような視点で見えていくのかを都市デザインとの関わりを通して説明する。第 3 回～ 4 回では 欧米の事例を挙げながら 近代都市計画初期の理論について解説を行う。第 5 回～第 15 回では、日本の都市計画制度の仕組みや問題点を通して、都市計画の制度的方法論(実践論)を解説する。必要に応じて理解度チェックテストを実施するので十分に復習しておくこと。 教科書および参考書： みんなの都市計画 (脇田祥尚, 理工図書 2009,4) を教科書として用いる。					
授業の概要と予定：前期		教室外学修			
第 1 回：成熟社会の都市計画／ 建築と都市	教科書 p202～p203「第 15 章-5 成熟社会の都市計画」、教科書 p2 ～p11「第 1 章 建築と都市のデザイン」を熟読する。				
第 2 回：地域・地区のデザイン	教科書 p12～p27「第 2 章 地域・地区のデザイン」を熟読する。				
第 3 回：近代都市計画思想 (ユートピアンの提案・田園都市論)	教科書 p184～p191「第 14 章 近代都市計画思潮」を熟読する				
第 4 回： ” (近隣住区論・その他)					
第 5 回：日本の都市計画制度の枠組み・都市計画決定の仕組み	都市計画決定における住民参加制度をイギリスの場合と比較しながらまとめる。				
第 6 回：都市計画マスタープラン	教科書 p112～p125「第 9 章 都市計画法とマスタープラン」を熟読する。				
第 7 回：まちづくりと市民参加	教科書 p44～p57「第 4 章 まちづくりと市民参加」を熟読する。				
第 8 回：中間試験	—				
第 9 回：線引き制度・開発許可制度	教科書 P126～138、142～145 「第 10 章 土地利用計画 1～3」を熟読する。				
第 10 回：地域地区制 (ゾーニング)					
第 11 回：土地利用計画制度の問題点	日本のゾーニング制の仕組みと問題点をアメリカと比較しながらまとめる。				
第 12 回：地区計画	教科書 P139～141、146～147「第 10 章 4.地区計画」と用語集を熟読する。				
第 13 回：都市交通の計画技術と制度	教科書 P150～151「第 11 章-2 道路計画」p156～159」、教科書 P102～109 「第 8 章-3 交通まちづくり」を熟読する。				
第 14 回：公園・緑地計画	教科書 P152～156「第 11 章-3 公園緑地計画」を熟読する				
第 15 回：市街地開発事業の仕組みと問題点	教科書 P160～170「第 12 章 市街地開発事業」を熟読する。				
	期末試験				—
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)	—				